

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

179

4月初旬、長野県無形民俗文化財の7年に一度の天下の大祭、諏訪大社・式年造宮御柱大祭にJ A大北旅行センターが企画した、バス日帰りツアーに参加

した。

朝5時に白馬を出発、美麻・八坂・大町・松川・池田・松本で参加者を乗せ、9時に会場に到着する行程。久しぶりに大北管内をバスの車窓から見学。高い位置から見ると、新しい見どころが随所に発見できた。

地域に存続する文化行事に参加して 地域を見つめ直しませんか

見ると、新しい見どころが随所に発見できた。

諏訪地方6市町村の氏子がかぞって参加する御柱祭。神事を司る諏訪大社は、全国各地の諏訪神社の総本社であり、国内にある最も古い神社だ。諏訪市に上社本宮、茅野市に上社前宮、下諏訪町に下

社春宮と、下社秋宮の4か所の境内地があり、山の中から「御小屋の山の樅の木は、里に下りて神となる」と木遣り歌に象徴される樹齢150年を優に超えるモミの木の大木16

る。訪れた日の、上社山出しは5本、10時から前宮一の見学だ。事前待機場所から案内で、棧敷席へ移動、困ったら黄色のスタッフジャンパーに聞いてと案内だが、スタッフ

幅も狭く、人の入れ替え対策も不十分。1時間ごとに、入れ替える営業戦略は、より多くの人達に見学してほしいとの思いもあるのだろうか。事故の未然防止の観点からも、熟慮の必要性を感じてしまう。

だが私達の前宮一の御柱、前後に角



驚くほど、大勢の氏子の御柱祭に寄せる想いが観衆全員を祭りに夢中にさせる

る。木落しの醍醐味と興奮を堪能する体験をする事ができた。この日は、諏訪地方観光連盟の御柱祭観光情報センターによると人出は35万2000人との情報。全国から参集し

た大観衆を、華麗に豪快に、そして勇壮に奮い立った氏子の皆さんに感謝した旅でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)